

平成 30 年 6 月 26 日

関係各位

京都市立堀川高等学校  
校 長 谷 内 秀 一

文部科学省 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)研究指定校  
文部科学省 スーパーグローバルハイスクール(SGH)研究指定校

## 京都市立堀川高等学校

# 第 20 回 教育研究大会のご案内

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は本校教育活動に格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、来る 6 月 29 日(金)に本校におきまして、第 20 回教育研究大会を下記のとおり開催いたします。

本大会は、京都市立高等学校教育改革のパイロット校に指定された本校の教育活動を公開し、ご指導とご助言を仰ぐとともに、よりよい高等学校教育の実現に向けて活発な交流を行うために開催するものでございます。

本大会では、研究授業や公開授業、および教科別の分科会に加え、「未知の世界を生き抜くための力をつける教科指導」に向けて組織的に進めている取組を報告する全体会を実施いたします。

ご多用のことと拝察いたしますが、多くの方々に参加いただき、ご指導を賜りたくご案内申し上げます。

記

### 研究大会テーマ

「未知の世界を生き抜くための力をつける教科指導」

## 日程

平成 30 年 6 月 29 日 (金)

8:45	9:30	10:20	10:40	11:30	11:45	12:35	14:00	16:00	16:15	17:00
受付	全体会Ⅰ	(移動) 休憩	研究授業Ⅰ 公開授業	(移動) 休憩	研究授業Ⅱ 公開授業	昼食・休憩	分科会	(移動) 休憩	全体会Ⅱ	

(1) 全体会Ⅰ

(2) 研究授業

国語総合 B, 地理 B, 現代社会, 数学Ⅰ, 生物研究, コミュニケーション英語Ⅱ

(3) 公開授業

国語, 地歴・公民 (世界史, 日本史, 地理, 現代社会), 数学,  
理科 (物理, 化学, 生物, 地学), 英語, 保健体育, 家庭

(4) 分科会

(5) 全体会Ⅱ

## 会場

京都市立堀川高等学校

〒604-8254 京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2

### 注意事項

携帯電話・スマートフォンはマナーモードにしてください。

参加者は名札をご持参の上, 校内では必ず着用してください。

貴重品の管理はご自身でお願い致します。

大きな荷物をお持ちの方は, 1 階 進路資料室に置くようお願い致します。

写真, ビデオ撮影はご遠慮ください。

## 研究授業

### 研究授業 I (10:40～11:30)

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
地理B	タイトル	世界の工業	中村 顕 2年3・5組 (人間探究科) S-303
	概要	世界の工業に関する概論を踏まえ、特定の製品の生産に関するパフォーマンス課題に取り組み、工業についての理解を深める。	
	ねらい	世界の工業についての理解は、分業体制を中心とする生産への理解だけでなく、需要を生み出す消費への理解も重要である。パフォーマンス課題を用いることで、工業の理解を生産と消費の双方を意識した形で深めさせる。	

### 研究授業 II (11:45～12:35)

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
国語総合B	タイトル	『伊勢物語』『東下り』～和歌を軸に読む～	中川 愛 1年1組 (普通科) S-401
	概要	「東下り」に採録されている四首の和歌から、情景や「男」の心情を解釈した上で、その心情の変化を読み取り、章段全体の理解を深める。	
	ねらい	「男」の「望郷」の情が都から遠ざかるにつれて強まっているということについて、和歌を軸として考察して説明させることで、「都」を強く意識していた王朝人のあり方に対する理解を深めさせる。	
数学 I	タイトル	図形と計量(三角比)	山田 仁朗 1年6組 (探究学科群) 演習室7・8
	概要	三角比という新たな概念を導入し、数学史や「三角比の表」の利用を学びながら、本単元を学ぶ意義について考える。	
	ねらい	三角比の概念を、生きて働く知識として習得させ、未知の事象の考察に活かそうとする態度を身につけさせる。	
現代社会	タイトル	大日本帝国憲法と日本国憲法	安達 太郎 2年1組 (普通科) S-301
	概要	大日本帝国憲法についての与えられた課題を、グループごとに考察し、発表する。	
	ねらい	中学校までで学習した日本国憲法や歴史の知識を用いて、グループで大日本帝国憲法について考察を深めることで、日本国憲法への理解を深めさせる。	
コミュニケーション英語 II	タイトル	CROWN II Lesson4 (Crossing the Border)	藤本 真由香 2年3組 (人間探究科・自然探究科) S-303
	概要	授業の内容に関して発展的な表現活動を行う。	
	ねらい	本文に関連する話題に関して、自分の意見を英語で表現できるようになることを目指す。	

生物研究	タイトル	神経細胞(ニューロン)と神経回路の性質	森口 裕之 3年5・6組 (自然探究科) 自然科学 教室
	概要	動物の行動の基盤である「神経回路」について理解を深めていくための1つのステップとして、神経回路の活動を電気信号として計測する実験(電気生理学実験)を題材とした演習問題に取り組む。「神経細胞」やその活動についてこれまでに学んだ知識から実験結果を予想させ、その理由や考え方を発表・議論させる。	
	ねらい	「意外性をはらむ問題」や「生徒により意見が分かれそうな問題」を提示することで生徒間の議論を促進し、生徒らが課題解決を図る過程で自然に起こる言語活動を通して神経細胞や神経回路についての知識の定着と理解の深化を図る。	

## 公開授業

公開授業(10:40～11:30)

国語、地歴・公民(日本史、地理、現代社会)、数学、理科(化学、生物、地学)、保健体育、英語

公開授業(11:45～12:35)

地歴・公民(世界史、地理)、数学、理科(物理)、家庭

\*会場は当日お知らせします。

## 分科会

分科会(14:00～16:00)

分科会	国語科	地歴・公民科	数学科	理科	英語科
会場	演習室7・8	ラーニングコモンズ (図書館2F)	授業研究室	物理地学教室	演習室3・4

分科会　国語科	テーマ　「国語」に育つ	
<p>国語の授業において「国語」に育てられることと「国語」を育てることの両方を意識することを今年の本校国語科研究テーマとしています。「国語」から感じ、「国語」を通じて考えることが、本校研究テーマの「未知の世界を生き抜く力」につながりはしないか。本年度は特に古文の学習を中心に、ご参加の皆様と一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>分科会前半は研究授業の研究協議、後半は本校国語科研究テーマについての意見交流を予定しています。</p>		
発表　中川　愛	司会　鶴藺　智志	記録　飯島　弘一郎 安友　郡詞
助言者　京都市教育委員会学校指導課副主任指導主事　景山　晋之介　氏		

分科会	地歴・公民科	テーマ	知識を使って理解を深めるー主題型学習を見据えて
<p>新学習指導要領においては、各項目について「次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること」の中で「主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する」ことが地理総合や歴史総合、公共で求められています。現在、このことを念頭に、主題型学習を取り入れたカリキュラムや評価を開発中であり、この点を中心に協議を行い、多くのご意見をいただきたいと思います。</p>			
発表	安達 太郎 中村 顕	司会	吉谷 智美
		記録	達 史香 村井 昂介
助言者	京都市教育委員会学校指導課高校教育担当指導主事 滝本 順之 氏		

分科会 数学科	テーマ 教科指導法における基礎的要素の共有と授業での実践	
<p>研究授業を通して生徒の力を伸ばし、学びに向かう姿勢等を涵養するために有効な指導法・授業を考えていきます。</p> <p>分科会では実践している教科指導法における基礎的要素とはどういったものであるか、またその指導においてどのように評価を行っていくかなど、指導と評価の一体化を中心に参加者の方々と幅広く議論を深めたいと考えています。</p>		
発表 山田 仁朗 和泉 信彦	司会 柳瀬 大輔	記録 吉井 貴寿
助言者 元立命館大学教育開発推進室機構教授 大学コンソーシアム京都高大連携推進室アドバイザー 椋本 洋 氏 京都市教育委員会学校指導課高校教育担当指導主事 家宇治 望 氏		

分科会　理科	テーマ　生徒の科学的思考力を鍛える～仮説形成をしなくなる問いとは～	
<p>前半では、研究授業(生物)の協議を行います。</p> <p>後半では、物理、化学、地学において、生徒の科学的思考を鍛える取組を紹介させて頂いたのち、参加者の皆様方にも各校の取組をご紹介頂ければと思います。うまくいっていることや課題も含め、さまざまなお話をさせて頂く中で、今後、生徒の力をより伸ばしていける方策を一緒に考えていければと思います。</p>		
発表　阿部　博之　今崎　善正 中村　圭吾	司会　滝本　梨恵子	記録　井上　容子
助言者　京都市教育委員会学校指導課高校教育担当指導主事　宮越　敬記　氏		

分科会	英語科	テーマ		生徒の豊かなコミュニケーション力を育成する指導と評価 ーCAN-DO Listを軸にしてー	
<p>前半では、研究授業の協議を行います。</p> <p>後半では、まず本校における CAN-DO List 作成の背景を説明します。その後、実際どのように CAN-DO List を活用しているか、またそこから見えてきた課題などを紹介します。発表後の質疑応答を通して、生徒のコミュニケーション力の育成や評価に関して、よりよい方法を模索できればと考えています。</p>					
発表	藤本 真由香	司会	西川 光	記録	岩見 正樹
	諏訪 郁子		森田 大助		
助言者		京都市教育委員会学校指導課高校教育担当指導主事		馬谷 陽子 氏	

## アクセス



### ■京都市バス

- 「堀川蛸薬師」すぐ
- 「四条堀川」徒歩2分

### ■阪急京都線

- 「大宮」駅 徒歩5分

### ■京福嵐山線

- 「四条大宮」駅 徒歩5分

### ■京都市地下鉄

- 烏丸線「四条」駅 徒歩9分
- 東西線「二条城前」駅 徒歩8分

### ■J R山陰線

- 「二条」駅 徒歩14分

※ 自家用車での来校はご遠慮ください

(本研究大会のお問い合わせ先)

京都市立堀川高等学校 研究部 井上, 塚田

メール: [kenkyu2018info@horikawa.edu.city.kyoto.jp](mailto:kenkyu2018info@horikawa.edu.city.kyoto.jp)

電話: 075-211-5351

以上